

2024年（令和六年） 6月21日（金曜日）

毎週（金）14:00発行

発行所 （一財）日本エネルギー経済研究所  
石油情報センター電話（03）3534-7411（代）  
FAX（03）3534-7422〒104-8581 東京都中央区勝どき1-13-1イヌビル・カドキ10階  
ホームページ <https://oil-info.iej.or.jp>

## ■ 概況

当週（6月13日～19日）の国際石油市場は、堅調に推移した。

NY原油先物は、13日、続伸の78.62ドルで始まり、14日は仏英両国の政治不安で反落したものの、先行き需要期に向けた需要増加期待、欧州の利下げ、米国の利下げ期待、地政学的懸念等を背景に、週明けは続伸、80ドル台に乗せ、18日、4月下旬以来の81.57ドルで終わった。

また、中東産バイ原油/東京市場（8月渡し）も、前週（6月6日～12日）79.20～82.40ドルの範囲で推移したが、当週は、6月13日81.90ドル、14日81.20ドル、17日81.20ドル、18日82.90ドル、19日83.30ドルと推移した。

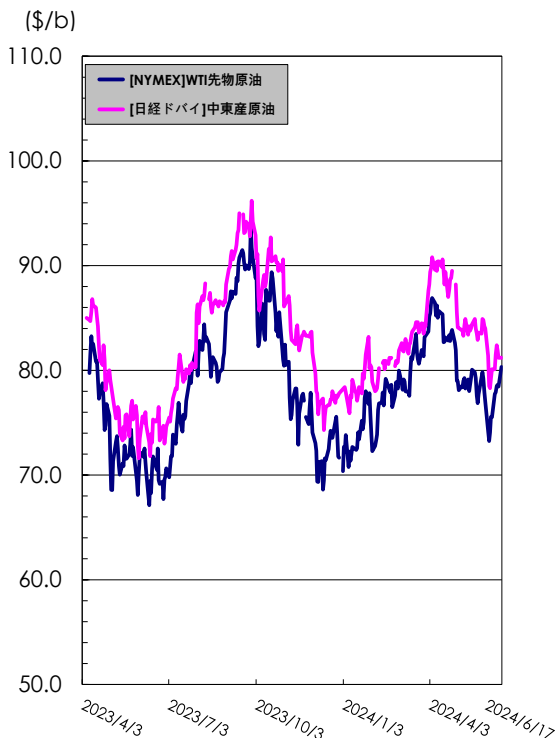
対ドル為替レート（TTM）は前週（6月6日～12日）155.78～157.33円の範囲で推移したが、当週は、6月13日156.89円、14日157.31円、17日157.53円、18日157.74円、19日157.96円となった。

財務省が6月19日に発表した貿易統計（速報・旬間）によると、5月下旬の原油輸入平均CIF価格86,922円で前旬比

545円安、ドル建て88.95ドルで前旬比0.02ドル安、為替レートは1ドル/155.36円。また、5月月間の原油輸入平均CIF価格86,906円で前旬比5,187円高、ドル建て88.87ドルで前旬比3.14ドル高、為替レートは1ドル/155.47円。

そのような中で、6月17日時点の国内製品小売価格は、ガソリンが前週比0.1円安、軽油も同0.1円安、灯油は同横ばい（18リットルベース）、ガソリンの全国平均価格は174.7円となった。6月20日～26日の燃料油価格激変緩和補助金の支給額は24.0円（補助金がない場合の次週予想価格198.8円で、固定支給部分10.2円、185円を超える変動支給部分は13.8円）となった。

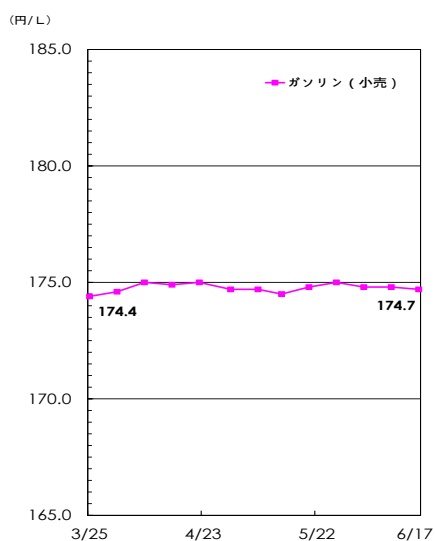
原油		今週	前週比	前年比
需給	原油処理量 (千kl)	6/9 ~ 6/15	2,280 ▼ -68	▼ -
	トッパー稼働率 (%)	"	63.4 ▼ -1.9	▼ -
	原油在庫量 (千kl)	6/15	9,858 ▼ -689	▼ -
価格	中東産原油(日経バイ) (\$/bbl)	6/17	81.20 ▲ 1.10	▲ 6.1
	WTI先物原油(NYMEX) (\$/bbl)	6/17	80.33 ▲ 2.59	▲ 9.8
	原油CIF単価 (\$/bbl)	5月下旬	88.95 ▼ -0.02	▲ 2.50
	①原油CIF単価 (¥/kl)	"	86,922 ▼ -545	▲ 13,312
	②ドル換算レート (¥/\$)	"	155.36 ▲ 0.97	▼ -19.99
	外国為替TTSレート (¥/\$)	6/17	158.53 ▼ -0.52	▼ -15.56



(単位: 千kl、円/%)

ガソリン		今週	前週比	前年比
需給	生産	6/9 ~ 6/15	800 ▼ -26	▼ -
	輸入	"	n.a.	n.a.
	出荷	"	746 ▲ 10	▼ -
	輸出	"	95 ▲ 37	▲ -
	在庫	6/15	1,874 ▼ -40	▲ -
価格	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾) 6/11 ~ 6/17	83.0 ➡ 0.0	▲ 8.8
		(TOCOM/中部) 6/17	80.7 ➡ 0.0	▲ 1.5
	小売 [週動向]	(資工庁公表) 6/17	174.7 ▼ -0.1	▲ 4.6

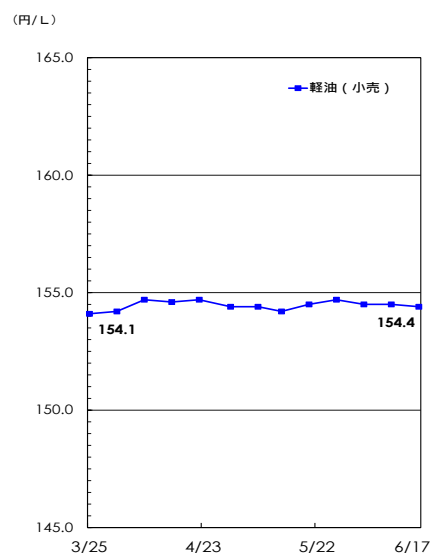
※業転、先物価格は税抜き価格



(単位: 千kl、円/%)

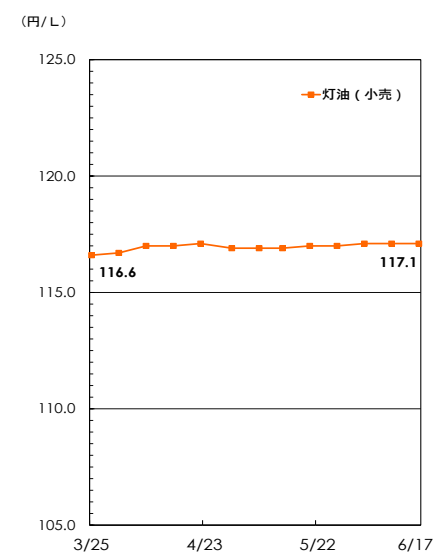
軽油		今週	前週比	前年比
需給	生産	6/9 ~ 6/15	653 ▼ -17	▲ -
	輸入	"	n.a.	n.a.
	出荷	"	647 ▲ 73	▲ -
	輸出	"	28 ▼ -20	▼ -
	在庫	6/15	1,640 ▼ -22	▲ -
価格	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾) 6/11 ~ 6/17	83.9 ➡ 0.0	▲ 3.4
		(TOCOM/中部) 6/17	-	-
	小売 [週動向]	(資工庁公表) 6/17	154.4 ▼ -0.1	▲ 4.4

※業転、先物価格は税抜き価格



(単位: 千kl、円/%)

灯油		今週	前週比	前年比
需給	生産	6/9 ~ 6/15	84 ▼ -50	▼ -
	輸入	"	n.a.	n.a.
	出荷	"	31 ▼ -50	▼ -
	輸出	"	0 ▼ -20	➡ -
	在庫	6/15	1,721 ▲ 52	▲ -
価格	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾) 6/11 ~ 6/17	81.5 ➡ 0.0	▲ 2.5
		(TOCOM/中部) 6/17	81.5 ➡ 0.0	▲ 1.0
	小売 [週動向]	(資工庁公表) 6/17	117.1 ➡ 0.0	▲ 5.2



■ 関連情報

1 海外/原油 (WTI原油先物市場)

前週(6/6~6/12)のNYMEX・WTI先物市場は75.53~78.50ドルの範囲で推移した。

当週、6月13日は、連邦準備制度理事会が年内利下げを示唆する資料を発表、また、米国の経済指標もインフレ鎮静化を示してきており、利下げ期待から、4日続伸した。7月物終値は、前日比0.12ドル高の78.62ドル。

週末14日は、6月の米国の景況感指数が市場予想を下回り、景気の先行き懸念から、5日ぶり反落した。仏・独両国の株価下落・政情不安も値下がり要因となった。7月物終値は、同0.17ドル安の78.45ドル。

週明け17日は、米国のガソリン需要期入りの需要増加期待、先週の米エネルギー情報局(EIA)の2024年需要見通しの上方修正、当面のOPECプラスの減産合意順守観測等から、大きく反発、80ドル台を回復した。7月物終値は同1.88ドル高の80.33ドル。

18日は、米国の利下げ観測が高まる中、エネルギー需要への楽観的見通しに加え、ウクライナによるロシア南部の石

油貯蔵施設へのドローン攻撃など地政学的緊張の高まりもあって続伸、4月末以来の高値を付けた。一日遅れの発表予定の米国石油在庫統計では原油在庫は減少の見通し。7月物終値は、同1.24ドル高の81.57ドル。

19日は、黒人奴隷解放記念日の祝日につき、休場。

2 海外/米国石油市場

6月14日時点の米国エネルギー情報局(EIA)の米国国内週間在庫統計は、祝日につき一日遅れの20日発表の予定。

EIAによると、6月17日時点で、ガソリンの小売価格は、前週比0.6セント高の1ガロン3.435ドル(143.7円/ℓ)と8週ぶりの値上がりで、ディーゼル小売価格は、前週比7.7セント高の1ガロン3.735ドル(156.2円/ℓ)と10週ぶりの値上がり。

ペーカーヒューズ社によると、6月14日時点で、前週比4基減の488基と3週連続で減少した。

3 国内/製品出荷量

石連週報によれば、2024年6月9日~6月15日に休止したトッパー能力は73.7万バレル/日で、前週に対して5.4万バレル/日増加した(全処理能力は323.0万バレル/日)。

原油処理量は228.0万klと、前週に比べ6.8万kl減少。前年に対しては8.9万klの減少。トッパー稼働率は63.4%と前週に対して1.9ポイントの減少、前年に対しては0.5ポイントの減少となった。

生産は前週に比べてA重油が増産となり、その他の油種で減産となった。ガソリン/3.2%減、ジェット/10.8%減、灯油/37.1%減、軽油/2.5%減、A重油/16.5%増、C重油/29.0%減。今週のC重油の輸入は0.0万kl(前週比横ばい)。軽油の輸出は2.8万kl(前週比2.0万kl減)。

出荷(輸入分を除く)は前週に比べてジェット、灯油が減少し、その他の油種で増加した。前年比では軽油が増加し、その他の油種で減少した。ガソリンの出荷は74.6万kl(対前週1.3%増)と3週連続で増加した。ジェット5.5万kl(対前週45.7%減)、灯油3.1万kl(対前週61.0%減)、軽油64.7万kl(対前週12.8%増)、A重油17.9万kl(対前週5.3%増)、C重油11.4万kl(対前週3.9%増)。

(単位:千L)

	今週 (6/9 ~ 6/15)	前週 (6/2 ~ 6/8)	前週比
ガソリン	746	736	▲ 10 (1%)
ジェット燃料	55	101	▼ -46 (-46%)
灯油	31	81	▼ -50 (-62%)
軽油	647	574	▲ 73 (13%)
A重油	179	170	▲ 9 (5%)
C重油	114	110	▲ 4 (4%)
合計	1,772	1,772	▶ 0 (0%)

※今週出荷量 = (前週末在庫 + 今週生産 + 今週輸入) - (今週輸出 + 今週末在庫)

## 4 国内/製品在庫量

6月15日時点の在庫は灯油が積み増しとなり、その他の油種で取り崩しとなった。前年に対してはC重油が減少し、その他の油種で増加した。

ガソリンは187.4万kl、前週差4.0万kl減。前年に対しては27.7万kl多い。

灯油は172.1万kl、前週差5.2万kl増。前年に対しては23.8万kl多い。

軽油は164.0万kl、前週差2.2万kl減。前年に対しては19.2万kl多い。

A重油は74.9万kl、前週差0.2万kl減。前年に対しては6.7万kl多い。

C重油は177.0万kl、前週差0.7万kl減。前年に対しては10.6万kl少ない。

(単位：千KL)

	今週 (6/15)	前週 (6/8)	前週比
ガソリン	1,874	1,914	▼ -40 (-2%)
ジェット燃料	756	792	▼ -36 (-5%)
灯油	1,721	1,669	▲ 52 (3%)
軽油	1,640	1,662	▼ -22 (-1%)
A重油	749	751	▼ -2 (-0%)
C重油	1,770	1,777	▼ -7 (-0%)
合計	8,510	8,565	▼ -55 (-0.6%)

## 5 国内/元売会社製品卸価格

6月11日～17日のドル建て中東原油価格は値上がり、為替レートも円安で、円建て輸入原油価格は値上がりし、元売会社の卸価格建値は値上げしたものと見られる。補助金は増額されたものの、6/20～6/26の実質卸価格は値上がりとなった模様。

## 6 国内/製品小売価格

6月17日時点のSS店頭価格は、ガソリンが前週比0.1円安の174.7円、軽油も同0.1円安の154.4円、灯油は18%ベースで同横ばいの117.1円(1%ベースでも横ばいの117.1円)。ガソリンは2週ぶりの値下がり、軽油も2週ぶりの値下がり、灯油は2週連続の横ばいだった。

ガソリンについて、都道府県別には、値上がりが12都県、横ばいは12県、値下がりが23道府県だった。全国最安値は岩手県の168.2円、その次は岡山県の169.3円であった。他方、最高値は長野県の184.5円。最も値上がりしたのは宮城県(同1.9円高)、最も値下がりは愛知県(同1.1円安)だった。

次回調査時(6/24)のガソリンの小売価格は、小幅な値上がり予想される。

(単位：円/%)

(資工庁公表) [週動向]	今週 (6/17)	前週 (6/10)	前週比	直近高値
レギュラー	174.7	174.8	▼ -0.1	23/9/4 186.5
灯油	117.1	117.1	→ 0.0	08/8/11 132.1
軽油	154.4	154.5	▼ -0.1	08/8/4 167.4

※ 現金一般価格の全国平均値(消費税込み)

07年4月以降 2,000店舗を対象。

直近高値とは2004年6月以降の最高値。

## ■ お知らせ

本レポートは当センターのホームページ (<https://oil-info.iej.or.jp>) に掲載しています。  
次回 (2024第12号) の公表は、6/28 (金) 14:00 です。

### 本レポートのご利用について

本レポートについて、テキスト、グラフィックス及びその他の情報 (以下、併せて「ドキュメント」) に関わるすべての知的所有権は、一般財団法人日本エネルギー経済研究所石油情報センター (以下、当センター) 又は当センターへドキュメントを提供している第三者へ独占的に帰属します。

当センターの事前の書面による承諾を得ることなく、ドキュメントを転用、複製、改変等の一切を固く禁じています。

また、ドキュメント内容に関しては万全を期していますが、その内容の正確性および安全性を保証するものではありません。

### 「ウィークリー オイル マーケット レビュー」とは

当センターでは、平成16年5月に経済産業省資源エネルギー庁資源・燃料部石油流通課主催の「石油製品市場動向研究会」が取りまとめた中間報告を受けて、石油連盟、全国石油商業組合連合会をはじめ関係機関等の協力のもと、石油関係者、企業の経営者の方々から一般消費者の方々まで、原油・石油製品需給や価格動向を的確に理解するツールの一つとして、「ウィークリーオイルマーケットレビュー」を平成17年5月より定期的に発信しています。

### 本レポート掲載データの出所について

#### ①【原油・石油製品需給】〈石連週報〉

石油連盟 (石連) 「原油・石油製品供給統計」週報データを千KL単位に換算して採用。

「出荷」は当センターの推計。

#### ②【原油価格】〈WTI先物原油、中東産原油〉

WTI原油は、ニューヨーク商業取引所 (New York Mercantile Exchange : NYMEX) WTI原油先物の期近物・終値を採用。

中東産原油は、日本経済新聞掲載の東京スポット市場 (取引の中心限月) の午後の中値を採用。※一般に、中東産原油は、ドバイ原油及びオマーン原油の平均価格が指標とされる。

為替換算レートとして、三菱UFJ銀行発表TTM

(Telegraphic Transfer Middle rate : 中値) を採用。  
原油CIF単価は、財務省貿易統計「原油・粗油平均CIF単価」(旬間値) を基に、石油連盟が試算したドル表示の参考値を採用。

#### ③【国内製品・元売仕切価格】

元売仕切価格は、元売会社 (一次卸) と系列特約店など (二次卸) との間で売買される卸価格。

#### ④【国内製品・小売価格】〈週動向調査〉

約2,000 SSを対象に週次ベースのSS店頭における店頭現金価格の全国平均値を採用 (資工庁公表)。原則として、毎週 (月) 時点の価格を調査し (水) 14:00に公表 (資源エネルギー庁HPに掲載)。